

【視察調査報告書】

会 派 名	日本共産党八王子市議会議員団
参 加 議 員	【議員】 5名 鈴木勇次 石井宏和 市川克宏 望月翔平 綿林夕夏
日 程	2024 年 10 月 10 日（木）～ 10 月 11 日（金）
詳 細	
視察日及び視察先	10 月 10 日（木） 岩手県 宮古市
視 察 内 容	国民健康保険税における子どもの均等割減免について
概 要	宮古市では、令和元年度より国民健康保険税の子どもの均等割りの減免を実施している。全国には、複数の子どもがいた場合や、所得制限などの要件にて減免している自治体はあるが、宮古市は所得制限なしで1人目の子どもから全額免除していることが特徴的である。
所 感 等 （意見・課題・ 本市への反映など）	減免額の財源は、宮古市ではふるさと納税の収入を活用し一般会計繰入金を捻出している。 制度実施における過程では、「市民全体で国保加入者を支援する形となるため市民からの理解を得ることが難しい」「対象者が限定的であるため市民全体を対象とする施策ではない」と一度は見送りになったものの、実施に踏み出した。減免を実施するにあたっての困難や財源確保に向けた試行錯誤も大変な中、様々考える子育て支援策として、国民健康保険税の子どもの均等割減免を行うこととした理由には「国民健康保険税の加入世帯は、低所得者層が多い。にもかかわらず、税負担が重く、協会けんぽ加入者の2倍の負担である。また、均等割の仕組みは子どもの数に比例して負担が重くなっている」という構造的な課題があることから減免実施に踏み切ったという。また、実施開始から6年目となるが、議会や国保運営協議会では肯定的な意見がほとんど伺った。本市における保険税負担軽減に向け参考としたい。
視察の様子	
	

視察日及び視察先	10月11日（金） 秋田県 仙北市
視 察 内 容	地域公共交通の充実に向けた取組について
概 要	秋田新幹線が停車する角館駅周辺は、武家屋敷で名高い観光地であり、「よぶのる角館」というオンデマンド交通を実証運行している。仙北市民は1回300円、それ以外は400円で、1日乗り放題券800円もあり、電話かWebで予約し、区間内のどこでも乗り降りできるもので、仙北市とJR東日本が共同で運営し、バス会社とタクシー会社が車両を運行している。車両は7人乗りか10人乗りのワゴン車か4人乗りのセダンで、予約を受けて、AIが配車や経路の選択、乗り合いの有無など判断し効率の最適化を図っている。利用実績は2022年度が6286人、2023年度は10004人で、今年度はさらに増えていることなど、ていねいに説明していただいた。 質疑を通じて、利用者の6割ほどは観光客で、電話予約が55%ほど、約4000万円の経費に対し、収入はその1割ほどで、観光客の比率も勘案して、JR東日本と経費の分担を決めていること、予約しても来なかった例もあり、5分待っても来なかったら次に向かうこと、繁忙期には車両を増やすものの、予約が殺到した場合は時間をずらしてもらうなどの対応をし、抱返り溪谷に1時間半遅れで到着した例もあることなどもわかった。 最後に、実際に予約してワゴン車に乗って武家屋敷近くの蕎麦屋で降ろしてもらったが、古い街並や広くない道幅に小回りの効く車両が似合って、ふさわしいと感じた。
所 感 等 （意見・課題・ 本市への反映など）	詳しい数字は聞かせてもらえなかったが事業の収支は厳しく、予算の圧縮を検討しているとのことであり、JRを含めて観光の促進を図る面が強いと感じた。本市でも、地域交通の充実を図る上で、域内の施設への誘客など観光や福祉の面から評価し、予算化することも大切だと考える。 電話予約の受付はバス事業者が行い、タクシー会社も含めて、運行時間に応じて費用を支払っているとのこと、閑散期があるものの年間を通じて安定的に仕事量が確保され、これらの会社にとっても有益で、競合することによる苦情はほとんどないとのことだった。むしろ運転手不足が深刻で、タクシーも平日は夜10時半までしか稼働しないという。本市でも、打越旭ヶ丘団地のように、タクシーを地域交通と兼用で運行してもらう方法も柔軟に迫るべきと考える。 AIによる調整や広報など事務的な経費は、全体の経費の4分の1ほどということであり、オンデマンド交通の導入を検討したいと思うが、その際も電話予約の方が多いということからそちらも残すべきだと考える。 廃止になったバス路線もフリー乗降区域に加え、角館温泉や抱返り溪谷なども乗降ポイントにして利用者の便宜を図っていることは貴重だと感じる。本市の交通空白地域を解消するために、大いに参考になった。さらに学んで、提言していきたい。

視察の様子

